

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ① ～本心を語り合う道德教育とは人間教育～

## 人間としての生き方を追求する道德教育と同和教育について

第25回全日本中学校道德教育研究大会徳島大会・大会主題「人間としての生き方を考える道德教育」について、公開授業で「自分たちは同和教育を通して人間の生き方を追求してきた」と語ったH-Iは、この授業を次のように振り返っている。

### あのさわやかな笑顔は忘れない

富田中学校での授業、全国大会の授業のことが脳裏に焼き付いている。僕たちが本格的に部落問題の学習に取り組み出したのは、2年の1学期途中だった。もう1年と6ヶ月ぐらいが過ぎている。当時を思い出せばなかなか発表できず、うわべだけの言葉ばかりだった。しかし、学習を続けていく中で何かが変わっていった。

しだいに自分の意思で発表する人が増え、森口先生を中心として大きな輪となって3年生を迎えた。本当に3年生の仲間はすごいと思いはじめた。この学習に全く無関心だった僕も、次第にこの学習を自分自身の問題として考えていくようになった。

僕は今まで頑張ってきた自分に自信を持って全国大会の日を迎えた。授業の始まる前、僕は二つのことを思っていた。

一つは「僕たちの学習は決してうわべだけのことを言っていない。みんなの本当の思いをぶつけあった学習を積み上げてきたんだ」ということだった。

もう一つは「この僕たちの学習を真剣に共に部落問題を解決していくんだという、はっきりした人間としての願いをもって見てほしい」ということだった。

12時50分、僕たちの授業は始まった。みんなの発言に胸がいっぱいになった。本当にすごい仲間と授業ができたことが、うれしくてしかたがなかった。授業が終わったとき、みんなの顔には笑みがこぼれた。僕はあのさわやかな笑顔を忘れない。

### 教科調査官と部落問題への思いを語り合えた喜び

感動の連続、「よろこび」に浸り続けた授業であった。授業後、指導助言者として参加されていた文部科学省・教科調査官(道德教育担当)の横山利弘先生からお話を伺うことができた。

その時の横山先生の言葉は、今も私の中に生き続けている。

「いつまでもあの子どもたちとつながってくださいよ。そして部落差別をなくしていくために頑張ってくださいよ。」

私は兵庫県明石市の出身だ。学生時代から部落差別について様々な怒りを持って生きてきた。まだまだ差別の現実には厳しいものがある。大切なのはこれからなんだ。

今日、部落出身という立場を語った生徒たちが決して傷ついていくことのないように、しっかりとつながり続けてほしい。

本当の勝負は、10年後、20年後なんだ。

結婚の時、決して傷つかないようにつながり続けてください。」

私は横山調査官の言葉に胸が熱くなった。調査官の思いがたまらなくうれしく、同時に、私の中で、道德教育に対するイメージが大きく変わっていった瞬間でもあった。

信頼と尊敬の絆の中で、本心を語り合う道德教育とは、まさに人間教育そのものなんだと思った。

